

第2回 メンテナンス体制検討WG 議事概要

日時：令和6年3月14日（木） 13:00～15:00

場所：国土交通省(中央合同庁舎2号館)共用会議室2A（オンライン併用）

1. 主な議事

○事務局より、下記について説明を行った後、委員による意見交換を行った。

- ① 第1回WGにおける主なご意見
- ② 港湾施設メンテナンス体制の確保に関する論点

2. 主な意見

- 土木採用の中で港湾勤務の頻度が下がり、技術力に不安を感じている職員が多く、人事の入れ替わりの際のキャッチアップに時間がかかっている。また、近年港湾業務の裾野が広がっている一方で人員は増えず、業務負担が増えている。
- 通常業務に加えて点検等業務を実施しており、事前準備、事後整理等の負担が大きい。
- 港湾事業が減少する中で、港湾に携わる時間も減少し経験を積む機会が少なくなっている。知見を有している団塊の世代が退職し、下の世代への技術の伝承、指導が困難なケースがある。
- 点検の合理化について、新技術の導入も重要であるが、厳しい財政事情を鑑みると、タブレット等を活用した簡易なシステムでの日常点検手法が低コストであるため取り入れやすいと考えている。
- 点検の合理化について、既存のデータベースを活用していくことが重要だと考えている。
- 点検の合理化について、重力式構造物は点検頻度を延ばしてもいいのではという意見も出ている。
- 簡易点検システムの導入が現場での負担減、省力化に繋がる。
- 漁港では日常点検の簡易システムを港湾漁港建設協会と連携して取り組んでいる。
- サイバーポートは、点検の合理化に繋がると期待している。
- サイバーポートでデータを一元化することは省力化に繋がるが、小さい港まで対応できるか心配しているところである。
- 離島においては、人員面の負担が大きいため、支援が必要ではないか。
- 自治体によっては、体制の規模が非常に小さく厳しいため、権限代行の支援措置を検討していただきたい。